

1953年6月3日……

ビリー・ジョーは身を投げた  
悲しい理由を知っていたのは  
ふたりの愛のかけ橋と  
橋を渡って町を出た少女……

■これはアメリカのロミオとジュリエットだ——レジス・フィルビン(KABC-TV)



A Max Baer Film

Bobbie Gentry's  
**Ode To  
Billy Joe**

ロビー・ベンソン/グリニス・オコーナー  
監督マックス・ベア  
製作マックス・ベア/ロジャー・カムラス  
映画原作・脚本ハーマン・ローチャー〈近代映画社刊〉  
原作音楽ボビー・ジェントリー  
オリジナル音楽ミシェル・ルグラン  
ワーナー・ブラザーズ映画  
共同製作マーク・サスキン/音楽指揮マーシャル・リープ  
オリジナル・サウンドトラック盤〈ワーナー・レコード〉

From Warner Bros. A Warner Communications Company

ビリー・ジョー  
**愛のかけ橋**

# \*かいせつ

1953年6月3日、アメリカ南部を流れるミシシッピ河にかげられた、タラハッチー橋から一人の青年が身を投げた。耐えきれない苦悩を胸に秘めたまま、何故彼は死を選んだのか。その悲しい謎を知っていたのは、2人の愛のかげ橋と、黙ったままで橋を渡って町を去っていった優しい少女だけだった……。

ボビー・ジェントリーの大ヒット曲「ビリー・ジョーの唄」に歌われている青春のラブ・ストーリーは、あまりに純粹すぎた恋人たちが命をかけて守った「愛と誇り」を見事に歌い上げて、1967年の発売以来、驚異的な売り行きを記録し、今なおアメリカ・ポピュラー音楽の古典として名誉ある地位を保っている。

この「アメリカ版ロミオとジュリエット」とまで讃えられているヒット・ソングをもとに俊英マックス・ベア監督が、「おもいで」の脚本ハーマン・ロチャー、音楽のミシェル・ルグランの名コンビを迎え、「ジュレミー」のロビー・ベンソンとグリニス・オコーナーの青春コンビを主演に、清冽なタッチで描いた「ビリー・ジョー愛のかげ橋」は、最近にない青春の愛の秀作となっている。

(上映時間 1時間47分)

# \*ストーリー

ボビー・リー・ハートレー（グリニス・オコーナー）とビリー・ジョー・マカリスト（ロビー・ベンソン）は幼なじみの恋人同志だった。ボビーは未だ16才、総明で、大勢でいるより独りの好きな女の子。少女と大人の間に揺れ動いているような不安定な年頃だった。ビリー・ジョーは18才、純粹で真面目で感じやすい青年だった。

1953年ミシシッピ州チカソー・カウンティは若い2人にとって、あまりに平凡で退屈な田舎町だった。ボビーの家はパパ（サディ・マクピーク）とママ（ジョアン・ホチキス）そして兄のジームス（アレックス・グッドマン）の4人家族。決して裕福ではないが暖かさに満ちていた。ビリー・ジョーはジームスと一緒にデュイー・バークデール（ジームス・ベスト）の製作所で働いていたが、酒を飲んだり、ブラインド・デートを楽しんだりするような仕事以外のつき合いはあまり好きな方ではなかった。2人はお互いに愛し合っていたが、どうしても最後の一線を踏みこえることができない。それはボビーの良心のためであったり、ビリー・ジョーの勇気のなさのためであったりした。そんな2人の間に決定的な悲劇

が起こったのは製材所で行なわれたバンドのコンテストの晩だった。近くの町からいろいろなバンドが参加し、若者たちは酒を飲みながら演奏を楽しんだ。ビリー・ジョーもいつになくご気嫌で、今日は少し飲み過ぎたようだ。気がつくやと辺りにはもう誰もいない。そして彼の側には思いもよらぬ人が一人いるのだった。

その日以来、ビリー・ジョーは姿を消した。皆で捜したが見つからない。心配するボビーの前に、やつれはてたビリー・ジョーが姿を現わしたのは2日ほど過ぎてからだだった。

2人はその夜タチハッチー橋で逢うことを約束した。ビリー・ジョーとボビーは手を取りあつて森の中へ入っていく、愛し合おうとしたが駄目だった……

そして苦し気にビリー・ジョーは驚くべき事を告白した。それがボビーがビリー・ジョーを見た最後だった。

1953年6月3日、ビリー・ジョーはタラハッチー橋から身を投げたのだ。数日後、町の人々はボビーに赤ん坊が出来たと噂し始めた。そしてそれはビリー・ジョーの子だと。そんな噂の中をボビーは、一人で町を出ていった。自分が黙って去っていくことによつてビリー・ジョーの名誉を守る。それが彼に対する彼女の愛なのだ。と信じて……。

# ビリー・ジョー 愛のかげ橋

ロビー・ベンソン  
グリニス・オコーナー  
監督 マックス・ベア  
製作 マックス・ベア/ロジャー・カムラス  
映画原作/脚本 ハーマン・ロチャー  
オリジナル音楽 ミシェル・ルグラン  
FROM WARNER BROS. A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY  
ワーナー・ブラザース映画  
■オリジナル・サントラ盤(ワーナー・レコード)



6月18日ロードショウ

丸の内ピカデリー (201) 2881

国電有楽町下車  
朝日新聞社ウラ

●前売り鑑賞券1000円発売中(一般1300円/大学1200円の処)

■時間

日・祝 10:20 平日 12:20 2:40 5:00 7:20